

予備校生のストレスに関する研究 —予備校生ストレス尺度作成の試み—

竹内利光 (東京成徳大学大学院)

キーワード: 予備校生, ストレッサー, ストレッサー尺度

問題と目的

高校を卒業して、大学受験への準備のために予備校や塾に在籍している生徒（ここでは、予備校生とする）は約 5 万人いるとされている（文部科学省, 2018）。大学受験は大きなライフイベントの一つであり、受験生は高いレベルのストレスを感じる事が多い。特に、予備校生は、大学受験に失敗した経験をもっていることが多く、志望校合格への心理的プレッシャーも高く、受験生症候群（元永ら, 2005）に代表されるような心理的問題を呈する可能性が高いといわれている。

しかし、学校に在籍している高校生や大学生とは違い、予備校では、生徒の心理的なサポート体制は十分とは言えない現状であり、今後は予備校生の心理的な支援体制を構築していくことが重要である（竹内, 2018）。予備校生の心理支援には、予備校生の心理特性等を理解することが前提となっているが、予備校生を対象とした研究が少なく、エビデンスがほとんどない状況である。

本研究では、予備校生のストレスに関する理解を深め、心理的支援の基礎となる知見を提供するものとして、予備校生ストレス尺度の作成を試みた。

方 法

調査対象と調査時期

首都圏 A 予備校, 東北地方 B 予備校に在籍する予備校生 818 名（男性 582 名, 女性 234 名, 不明 2 名, 平均年齢 18.79 歳, SD=1.13）を対象に, 2019 年 11 月に調査を実施した。

質問紙

竹内 (2019), Takeuchi&Ishikuma (2018), 森 (2015), 三浦ら (2008), 小山 (2001), 神藤 (1998), 岡安ら (1992) を参考に作成した, 暫定版予備校生ストレス尺度 28 項目を用いた。

結果と考察

項目分析により、回答に偏りがある 2 項目を削除し、残りの 26 項目に対して最尤法, Promax 回転による因子分析を行った。因子負荷量が .40 未満の項目を削除し、最終的に 3 因子が抽出された。“模擬試験で悪い成績をとった”などの 9 項目からなる第 I 因子を“学業ストレス”, “悪い成績をとって親に怒られた”などの 4 項目からなる第 II 因子を“親ストレス”, “授業の内容や先生の説明がよくわからなかった”などの 2 項目からなる第 III 因子を「授業ストレス」と命名した。また、それぞれの下位尺度について、信頼性の検討を行った結果、 α 係数は十分な値であった (.74~.85)。各項目の内容, 因子パターンならびに各因子の α 係数を Table 1 に示した。

Table 1 予備校生ストレス尺度の因子分析結果

	I	II	III	α^2
第 I 因子 学業ストレス ($\alpha=.85$)				
19. 模擬試験で悪い成績をとった	.75	.04	-.08	.53
1. 志望校の必要とする学力と今の自分の学力に差があった	.71	.03	-.14	.43
12. 模擬試験の結果について考えた	.70	.06	-.13	.44
23. 志望校に合格できるかどうか考えた	.59	-.04	.04	.38
21. 苦手な教科があった	.59	-.02	.11	.42
15. 自分が思うように勉強がはかどらなかつた	.58	-.09	.11	.35
4. 気だけあせて勉強に集中できなかった	.53	-.02	.05	.31
11. 人が簡単にできる問題でも自分にはできなかった	.49	-.03	.26	.42
28. 勉強の仕方がわからなかつた	.42	-.01	.25	.34
第 II 因子 親ストレス ($\alpha=.74$)				
16. 悪い成績をとって親に怒られた	-.07	.89	-.02	.74
6. 親に勉強するように言われた	-.04	.62	.09	.39
7. 親に兄弟姉妹や友人など他の人の成績と自分の成績を比べられた	-.01	.54	.05	.30
13. 悪い成績を親に見せなければならなかつた	.32	.46	-.05	.40
第 III 因子 授業ストレス ($\alpha=.74$)				
22. 授業の内容や先生の説明がよくわからなかつた	-.05	.03	.75	.54
24. 授業が難しくついていけなかつた	.04	.06	.74	.60
因子間相関		.42	.55	
			.23	